



導入期のコンクールに必要なケア 保護者・指導者のフォロー

3月1日に課題曲が発表されてから、予選・本選・全国決勝大会を経て、8月下旬の表彰式で幕を閉じるまで、ピアノ・ピアノコンペティションは約3～6ヶ月に及ぶ。このかけがえのない時間。子供の中にある柔らかい音楽の種を育てるために、指導者・保護者の温かい眼差しと協力が大切である。ぜひ有意義に、思い出に残る時間にして頂きたいと思う。

ところでコンペ初参加者は、どのような印象を抱いているのだろうか。2005年度参加者アンケートの一部をご紹介します。またこれまで延べ1,000名以上を参加させ、金賞始め上位入賞者を多数輩出している渡部由記子先生にも、「コンペがなぜ教育的に良いか」をお伺いした。

アンケートより

- まだ幼稚園児ですので、コンクール前は早寝早起きや、食生活といった事前の体調管理は母として気をつけてました。今年初めて参加したので、本人には楽しい気持ちで弾いてね、と声かけをしてました。きれいな音を出すには技術だけでなく、「心育」も大切なんじゃないかなと感じました。私自身、ピアノは素人ですがピアノが一層好きになりました。(A2級・幼児)
- 幼児なので、その日までできていないことが当日できたり、できていたのが突然できなくなったりと、親もかなり心配しましたが、おわってほっとしました。(A2級・幼児)
- 周囲に男の子でピアノを習っている子がいないので「女の子の習い事」という意識を持っていたのですが、とても上手な男の子の演奏を聞き学習態

度が変わりました。(A1級・小2)

- 4月位に練習が始まり本番の7月まで、3ヶ月にわたる練習で、同じ曲を少しずつ工夫して高めていくことの大変さと、面白さを同時に味わうことが出来ました。曲の速さをゆっくりにしてみたり、速く弾いてみたり曲のイメージを作り上げることが楽しかったです。(A1級・小2)

- バロックという時代の曲を感じとり、近現代とは違うんだという事を学ぶことが出来ました。とても成長が見られたと思います。(A1級・小1)

- 一つ一つの曲を小さなパーツから丁寧に仕上げることは、きれいに折れた折鶴のように、地味ですが素晴らしいものができたと思います。(A1級・小2)

※ 2005年度参加者・保護者アンケートより抜粋

『頑張る力』を育てるコンペ

コンペティションは、持続的に努力するプロセスです。私は17年前から生徒を参加させていますが、特に小さい子の「頑張る力」を育てるのに、コンペが最適だと確信しています。昔は春休みになると、保護者の方々に地元の公民館に集まって頂き、コンペの効果をご説明していました。当時は近隣から通われる方が多かったので、「△△小学校の○○ちゃんが決勝に出た」とか、「コンペに参加して、○○ちゃんはこれだけ変わった」等と、参加したお子さんが短期間に大きく成長したことをお話していました。決勝に進むのに特殊な才能は必要なく、誰でも努力したら叶う目標であることが伝わり、参加してみようという動機に繋がったのだと思います。

高いところでも、階段をつければ登れます。大きな目標を細分化して、小さな作業の積み重ねにすると良いと思います。まずは、目標に到達するための航海図をはっきりさせることがスタートです。航海図に沿って着実に進歩している実感が、頑張る力に繋がります。ただ、頑張ること自体が目標ではありません。目標は成果を上げること、だからこそ頑張れるのです。親が与えた環

境によって、子どもは驚くほど変わります。コンペは頑張る習慣を身につけるのに最適な環境だと思います。

中には「頑張らせて落ちたらかわいそう」「この子、ダメなんです」等と仰る方もありますが、子どもの可能性は無限です。可能性の芽をつみ取るような決めつけ・思い込みはしないで頂きたいと切に思います。実は、子どもの練習を通して、親も成長します。「自分の」子であるという所有意識を持たず、自分が尊敬する人物のお子さんを預かっていると思って、練習を見守ること、そしてほめて育てることが大事だとお話しています。6ヶ月というコンペの期間は、目標達成にほどよい期間です。自分の限界まで努力した経験があると、どんな状況でも「大丈夫、自分は乗り越えられる」という自信が持てるようになります。

未来は偶然手に入るものではなく、自分で創るものです。一人でも多くの方がピアノを通じて、人生を切り開く能力と自信をつけて頂くことを、願っております。



渡部 由記子先生

当協会評議員、指導法研究委員、ステップ担当者連絡会委員、ステーション育成委員、日比谷ゆめステーション代表